

# みどりのこえ

発行 長野県環境保全研究所  
令和7年(2025年)3月10日

編集 長野県環境保全研究所 自然環境部(飯綱庁舎)  
〒381-0075 長野市北郷 2054-120  
TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929  
E-mail:kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp



2024年の世界最南限確認母子群 (阪本森人撮影:2024年7月13日仁田岳)



## ライチョウ世界最南限個体群を見守る

静岡ライチョウ研究会は、1997年よりライチョウ (*Lagopus muta*) の世界最南限分布地で調査を続けている。世界最南端の繁殖地は長野県、静岡県境にある南アルプス南部イザルガ岳(標高2,540m)である(田嶋1985)。そこから北へライチョウの生息する県境の稜線は垂高山帯針葉樹林を挟みながらハイマツ群落や島状に分布する仁田岳(標高2,524m)、茶臼岳(標高2,604m)、上河内岳(標高2,806m)と続く。

各山岳のなわばり数は定期的調査を続けているイザルガ岳で1から2なわばり、仁田岳で1なわばり、茶臼岳で2から4なわばりとなっている。また不定期調査の上河内岳では3から9なわばりである。これら山岳のうちイザルガ岳と仁田岳はなわばりができる年とできない年があるが、茶臼岳以北では調査を実施した年には必ずなわばりを確認できる。

最南限のイザルガ岳では、2016年から2018年に1なわばりが確認され、2017年と2018年のなわばり雄が標識調査で同一個体と分かっている。しかしな

がらこの2018年を最後になわばりがもう6年確認できていない。

イザルガ岳のなわばり消失はどうしてなのだろう。そして今年も続くのだろうか。その原因が地球温暖化というのはやさしいが、生息環境となるハイマツ群落や風衝草原には景観的に大きな変化はみられない。だとすると、近隣山岳からの分散雄の移入減少や南アルプス北部からの数十キロに及ぶ雌の長距離分散減少が原因か。はたまた捕食者による影響や孵化して2~3か月の雛の生残率の悪化なのか。疑問は尽きずなかなか調査がやめられない。

田嶋一善(1985) 世界南端のなわばり(ライチョウ). 続々野鳥の生活. pp.103-107、築地書館

文・写真 朝倉 俊治 あさくら としはる  
静岡ライチョウ研究会会長  
南アルプスコネスコエコパーク科学委員会委員  
日本野鳥の会静岡支部副支部長

### Contents

【巻頭言】ライチョウ世界最南限個体群を見守る (朝倉俊治/静岡ライチョウ研究会会長) …	1
【特集】北アルプスのライチョウをとりまく“今”を知る ……	2~8
【こんなことやってるよ】木曾馬文化と草原の再生チーム ……	9

【Report】山と自然のサイエンスカフェ@信州 ……	10
【お知らせ】令和7年度のイベント予定 ……	10
生物多様性ポータルサイト「信州いきものがたり」 ……	11
【適応センター通信】 ……	12